

ADNOC(アブダビ国営石油会社)UAEにて 「世界のエネルギー事情セミナー」を実施

UAEにおいて「世界のエネルギー事情」というテーマで、平成24年9月17日から20日までの4日間セミナーを開催しました。

1. 実施に至る経緯

2010年2月にトレーニングセンター協力事業(TC)として、ADNOCを訪問し、同社販売部門幹部から日本でのカスタマイズ研修を実施してほしいとの要望があり、同年10月に、石油販売&物流というテーマで11日間のCPJ研修を実施しました。

その後、担当者で協議した結果、今回はアブダビ(UAE)に専門家を派遣しカスタマイズ研修を実施することで合意に達し、国際マーケティング部門が展開するビジネス活動に携わっている若手中堅社員を対象に、「世界のエネルギー事情」というテーマで今回の開催に至りました。



ADNOC 側代表の挨拶

2. 実施内容

(1) 1日目:日本のエネルギー情勢及び石油産業

日本のエネルギー情勢での講義では、2011年3月の大震災後、国内でも深刻かつ重要な問題となっている電力事情及び原子力の動向を中心に、政府が発表したエネルギー政策及び今後の動向について説明しました。

日本の石油産業の講義では、石油業界の規制緩和の歴史、近年における自由化後の販売における過当競争の実態、石油備蓄の歴史的背景・現状、石油の安定供給の重要性等、消費国側の視点で説明しました。

また今後の動向では、日本における少子高齢化・人口減少による石油需要の構造的減少問題をはじめ、地球温暖化対策、再生可能エネルギーに対する取組み状況について説明しました。

(2) 2日目:世界のエネルギー情勢

(エネルギー&イノベーション研究所 前田講師)

世界の石油産業を取巻く環境、諸要因の講義では、OPEC、非 OPEC 諸国の動向を中心に説明しました。産油国経済にとって重要である原油や天然ガス価格の動向といったビジネスに直結した講義だけでなく、ヨーロッパの財政危機、米国のサブプライムローンに端を発したリーマンショックによる金融危機のメカニズムや欧米の経済動向・見通し等についても説明しました。

特に、産油国にとって最大の関心事の1つでもある世界の原油埋蔵量、生産量の見通しや、地球規模の気候変動の動向といったグローバルな話題については、衛星写真等の映像も取り入れ、わかりやすく説明しました

中でも、2011年3月の大震災後の日本の原発の現状及び見通しの講義では講師と熱のこもった質疑応答、意見交換がありました。



前田講師による講義

(3) 3日目:再生可能(代替)エネルギーの現状及び見通し

(日本エネルギー経済研究所 永田講師)

既に UAE をはじめ他の中東諸国でも取組んでおり、一番関心が高いと思われる太陽光を中心に説明しました。

中でも、世界各国が取組んでいる太陽光、風力、バイオ、地熱等の開発状況をはじめ、メカニズム、経済性、投資状況及び問題点について、事例を含めた具体的な説明がありました。

また GCC 諸国における再生可能エネルギー、原子力等へのエネルギーシフトの講義では、研修生達の関心も高かったようで、熱心に質疑応答が交わされました。

(4) 4日目:アジア並びに世界のオイルマーケット動向、 (永田講師)

ADNOC がターゲットとしているアジア地域だけでなく、世界の原油マーケット全般について説明しました。

原油市場における価格メカニズムをはじめ、WTI、Brent、ドバイ等の指標原油の特徴、欧米の原油先物市場の再編の動き等、グローバルな視点からの説明がありました。

投機マネーによる金融市場及び原油先物市場へのカネの流れは、原油価格を左右する大きな要因となっており、産油国経済にとっても重大な関心事でもあるためか、エコノミストと真剣に質疑応答を交わしておりました。

また、今後の原油価格動向や代替エネルギーの講義では、小グループに分けディスカッションやプレゼンテーションの場も設けましたが、参加者達も非常に活発な議論を展開し、グループ毎の発表でも堂々としており、日頃から真剣に考えている様子が伺えました。



永田講師による講義

3. 総括

参加者数については、ADNOC 本社から13名、TAKREER アブダビ製油所から1名の合計14名と、決して多くはありませんが、一方的な講義だけに留まらず双方向の意見交換ができましたので、セミナーを実施するには適当な人数だと思っています。



研修生によるワークショップ

女性5名を含めた若手・中堅社員達も、毎日、全員が熱心に聴講し、講師達とも活発な質疑応答、意見交換をすることができ、有意義なセミナーであったと考えております。

今回のセミナーでは女性が5名参加しましたが、他の中東諸国の国営石油会社同様、同社でも女性社員の比率が高くなっており、特に本社部門の女性社員の活用が大きな課題となっていると痛感しました。

本セミナーの質疑応答、意見交換を通じて、参加者達の多くが将来のポスト石油について真剣に考えていることを知ることができたのは意外でしたが、今後の参加者達の活躍が楽しみです。

今回のセミナー開催については、もともとマーケティング部署より要請があったものですが、同社が石油・ガスだけでなく、原子力や再生可能エネルギーといった他のエネルギーについても関心を持っていることがわかりました。

出席者から回収したアンケートでは、ほとんどの参加者が、近い将来、日本で実施する研修への参加を希望しており、セミナー担当者として光栄であると同時に、改めて JCCP 研修に対する関心の高さを再確認しました。

日本にとって同国は中東産油国の中でも付き合いが長く、友好関係にあり最重要国の1つであると考えます。今後とも、JCCP 研修を通じ少しでも日本最良が増えるとともに、日本と UAE 両国の絆が一層深まることを願っております。

(研修部 小島 和男)



セミナー終了後の記念撮影